

大型コンクリート製品

記事提供：北陸土木コンクリート製品技術協会

平成29年10～12月期の出荷状況は、前年同期比+86%増加した。

出荷量の大部分は、大型ボックスカルバートが62%で、主な出荷先は高田河川国道管内の弁天大橋架替改良工事、金沢河川国道管内の加賀拡幅桑原函渠外工事に出荷された。次いでスノーシェット・シェルター類が34%で、管外の山形県(シェット)、宮城県(シェルター)に出荷された。また、コンクリート舗装版(融雪版)が約10年前からの継続工事である長野国道R19長野市高田歩道工事に出荷された。他は長尺側溝が羽越河川国道管内の鷹ノ巣道路、富山河川国道管内の芹谷道路、石川県南加賀農林総合事務所管内の土地改良事業に出荷され、監査廊は山口県平瀬ダムに出荷された。

大型コンクリート製品出荷量の推移

(単位：%、千t)

県名	平成28 年度計	平成29年度				備考
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
新潟県	+18	±0	▲89	+68		
	4.6	0.3	0.3	3.2		
富山県	+80	▲75	▲50	▲50		
	0.9	0.1	0.1	0.1		
石川県	±0	±0	±0	+140		
	0.1	0.0	0.0	0.6		
3県計	+27	▲43	▲81	+86		
	5.6	0.4	0.4	3.9		

(注) 大型コンクリート製品とは、大型ボックスカルバート(幅4m高3m以上で分割製作されたもの)、大型擁壁(高さ4～8mでセミレハフ型)、長さ5m以上の長尺側溝類、監査廊、コンクリート舗装版(融雪舗装版を含む)、スノーシェット、スノーシェルターをいう。

コンクリート業界再編の加速

災害やビックプロジェクト以外においては、公共事業予算が縮小から先の見えない平坦の状況が続く中で、益々M&A等の吸収合併が起きている。その中でも地方のみを拠点としている弱小メーカーが大手メーカーに吸収合併される状況が止まらない。地域産業としての雇用確保や生き残るためのひとつの手段として致し方ない。

今後も、先が見えない舵取りで業界再編が進んでいくだろう……

北陸土木コンクリート製品技術協会 <http://www.hokudocon.jp>